

Libro de Apolonio III

Translated by OTA Tsuyomasa

Abstract

The legend of Apollonius belongs to the type of fictive literature known as the Greek romance cultivated by the Greek-speaking peoples of the Mediterranean during the first and fourth century and which was translated into latin and romance languages. But the original text in Greek was lost.

The Spanish version appeared in the thirteenth century, written seemingly by an unknown cleric and in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way), style of which has been called *mester de clerecía* (scholars' art) as compared with *mester de juglaría* (minstrels' art).

This time, a translation is made from the strophe 385 to the 569.

アポロニオの書Ⅲ

太田 強 正 訳

「アポロニオの書」は1世紀から4世紀にかけて流行した所謂「ギリシャ・ロマンス」が大元であるが、それがラテン語、ロマンス諸語へと訳され、スペイン語版は12世紀に出たようであるが誰の手になるのかはわかっていない。ギリシャ語の原本も失われている。

スペイン語版は恐らくは聖職者が書いたものであろうと言われていて、メステル・デ・クレレシーア（mester de clerecía）に属するものである。これは中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派を意味し、文字の読み書きのできない吟遊詩人（juglares）によるメステル・デ・フグラリーア（mester de juglaría）と対をなすものである。本作品はクアデルナ・ビーア（cuaderna vía）と呼ばれる1行14音節同音韻4行詩で書かれていて、656連からなるテュロスの王アポロニオの奇伝叙事詩である。

今回は385連から569連までを掲載する。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

人名は原文通りにスペイン語読みに、地名は日本で普通に行われている表記に従った。

訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳で

はあるが日本語訳も参考にした。

本稿は Clásicos Castalia の Libro de Apolonio Edición de Carmen Monedero に基づいている。

385 テオフィロはすでに剣を抜こうとしていました
それを海を航海する盗賊たちが見ていました
彼らは悪党が犯罪を犯そうとするのを見ました
彼らは皆声を上げて悪党を躊躇させました

386 盗賊たちは助けるためにガレー船を急がせ
裏切り者を捕まえようとしてました
テオフィロは恐くなり、時を置かず
町の方へできるだけ早く逃げました

387 裏切り者はすっかり色を失ってディオニサのところへ行きました
恐怖のためにすっかり形相が変わってました
《奥様、と裏切り者はすぐに言いました、私はあなたの命令を果たしました
どのようにして私を自由にしてお金を払ってくれるのか考えてください》

388 しかし夫人はそっけなく答えました
《ここから出て行きなさい、と夫人は言いました、この嘘つきの、
裏切り者が
お前は殺人と非常に大きな裏切りを犯しました

そんな事をして恥ずかしいとか恐ろしいとか思わないようですね

389 村に戻って、お前の仕事をしなさい

そうしなければ、いまに創造主のばちが当たりますよ

もしまた私のところに来れば報いをうけるでしょう

お前がタルシアナにしたような、そしてこの上ない報いを》

390 悪党は自分がひどくだまされたと思い

このようなことを引き受けなければ良かったと思いました

奴隷のまま死に、解放されることはありませんでした

この様な事に関わった者はましな事にはならないでしょう

391 泥棒たちは必死に走って

テオフィロに追いか捕まえようと思いました

しかしそうはできないとなると

彼らは王女に怒りを向けました

392 彼らは王女が非常に美しいのを見て

彼女を連れ去り売ろうと考えました

それで大金を稼ぎ

決して再び貧乏になることはないと思いました

393 かわいそうに王女は悪い時に生まれたものです

多くの糧を備えたガレー船に押し込められました

彼らは待ち伏せを恐れていたので急いで漕ぎ

哀れな虜はミタレナ²³⁾に着きました

- 394 哀れな王女は市場へ連れて行かれました
彼女の売り手は財布を用意していました
安物買いの買い手が来て
彼女を買おうとして、いくらか尋ねました
- 395 この町を支配していたアンティナゴラ王は
非常に美しいこの哀れな女を見て
正気を失うほど愛情を抱き
彼女に財産から 10 ペサ²⁴⁾払うと約束しました
- 396 一人の悪い男が、遊郭の主人ですが、
彼女で大儲けをしようと考え
最初の値の 2 倍を約束しました
彼女を他の娼婦と一緒に働かせるために
- 397 アンティナゴラが 30 ペサを約束すると
その悪い男は 40 と言い
すぐにアンティナゴラ 50 に上げると
その汚らしい男は 60 につり上げました
- 398 その悪党はもっと大きな額を言いました
商品に誰も付けないような値です
あるいは鑄造貨幣でもっと要求したなら
王は純金で 20 ペソ追加したでしょう
- 399 アンティナゴラ王はこの事にこだわりたくありませんでした

悪党に彼女を買わせよう

悪党が彼女を買ったら、彼女を借り出しに行こう

そうすれば少ない金で事を達成できると思いました

400 悪党は金を払って彼女を手に入れることになりました

女を加護するような輩ではありませんでした

彼女に賤業のための房を用意して

その扉に彼女の値段を書きました

401 知りたい向きには、次のような事が書かれてありました

《タルシアナを最初に欲しい者は知らなければならない

1 リブラの金をそこに置かなければならない

他の者は各々 1 オンス金貨を差し出さなければならない》

402 こういう事の次第のなか

タルシアナ王女は卑劣な取引内容を理解して行き

涙を流しながら創造主に願いました

《主よ、と彼女は言いました、私をお助けください、あなたに私をお預けします

403 主よ、あなたはテオフィロから私をお守り下さいました

彼は裏切りで私を殺そうとしました

主よ、あなたの力は私を守るべきです

男たちが私の心を汚すことができないように》

404 ここに来て町の長であったアンティナゴラは

裏切り者に熱心に頼みました
生娘代がいくらなのか教えてくれるように
お願いだからどうか自分にそれを教えてくれうようにと

405 この初物は長に与えられました
その哀れな孤児は、着飾った人々と
大きな行列を作って遊郭に送られました
その様を見れば誰でも彼女が強制されたのが分かりました

406 他の者たちが出て行き、タルシアナ独りになりました
狼と子羊だけになったのです
しかし神が望んだ通り彼女はとても狡猾でした
簡単な言葉で狼を手なづけました

407 彼女は足元に額ずいて言い始めました
《ご主人様、どうか私の話をきいてください
ちょっと待って、我慢してください
天の神がそのことであなたに感謝するでしょう

408 今あなたは私の肉を砕こうとしていることで
私たちは二人とも大きな過ちを犯そうとしています
私は多くを失うかもしれませんが、あなたも得るものがありませ
ん
あなたは氣品をひどく損なうことになるでしょう

409 私はあなたの行為によって幸福と幸運を失うでしょう

あなたは邪悪な肉体で大罪を犯そうとしています
あなたは価値ある男です、そのことをわきまえてください
哀れな孤児を傷つけないでください》

410 彼女は自分が被った危険をすべて話しました
幼くしてどのようにして両親を失ったのか
父から莫大な遺産を受け取って
どのようにして偽りの、信仰心のない養育係を持つことになった
かを話しました

411 熱情を抱いていたアンティナゴラ王は
この話を聞いてすっかり大人になりました
心を入れかえて王女の方を向いて
非常に慎重に彼女の願いに答えました

412 《王女様、あなたの言うこの話はよく分かります
あなたは良い家柄で、良い土地の出身です
私へのこの頼みは
良く筋が通っていてもっともだと思います

413 私たちは皆肉で出来ており、死ななければなりません
私たちは皆この運命に従わねばならないのです
その上、人間は考えねばなりません
この世でしたことをあの世で苦しむことになる

414 神から私は娘を一人授かりました、まだ嫁入り前です

私は全力で娘を護りたい
娘をこんな場所で見たくないの
私はあなたをそうゆう思いで解放したいと思います

- 415 その上あなたが私に話した良き父上のために
そしてあなたがとても上手に語った十分な道理の故に
あなたが要求した以上のものを今与えたい
私にどんな場所で会ったかを覚えているように
- 416 あなたと罪を犯すのに必要なお金を
贈り物としてあなたに贈りたいと思います
もしあなたが願っても逃げるができないのなら
あなたの客になる人にあなたを解放してくれるようにそのお金を
あげなさい
- 417 もしあなたがこの計略で逃げる事ができたら
私が生きているかぎり、お金は必要ないでしょう
創造主があなたを助けてくださるように
あなたが自分の事柄をちゃんと処理できるように》
- 418 こう言うアンティナゴラは自分の住まいに帰りました
すぐに他の者が順番で客になりました
しかし王女は非常に賢く才知に富んでいたの
金は儲けて、体は許しませんでした
- 419 そこに来て彼女の客になった人は

皆気が変わって、皆同じような成り行きになりました
誰も彼女に危害を加えず、金を置いて行きました
持ってきたものから何も持たないで帰ったのです

- 420 昼が過ぎて午後になると
王女は大金を稼いでいました
裏切り者はその半部で満足するでしょう
悪党の目が笑っていました
- 421 彼女は陽気に見えますが、それは見せかけでした
こういう彼女を見ると彼はとても満足でした
彼は言いました：《娘よ、おまえは今や適した職を得た
明るく振る舞い、穏やか顔をしているのだから》
- 422 良き王女は非常に慎重な答えを返しました：
《ご主人様、あなたのおかげでもしそうだとしても
私はもっと罪のない他の仕事を知っていました
それはもっと儲かり、もっと立派なものです
- 423 もしあなたの親切から
私ができることに精を出すのを許してくださるのなら
あなたの要求するだけお支払いしましょう
あなたは大きな儲けを得、私は罪を犯さずに済みます
- 424 どんな形であれ
あなたは儲けが増えるでしょう

そのために私を買ったのですから、そうすべきです
あなたの利益のために話をしているのです、私を信じるべきです》

425 王女の話は非常に立派なものだったので
遊郭の主人の心をなだめて行き
定められた日までわずかな猶予を与えました
しかし要求したものをしっかり覚えているようにと言いました

426 次の日朝早く
王女は起きて、豪華に着飾り
立派なちゃんと調律したビウエラ²⁵⁾を取り
お金をもらうためにビウエラを弾きに市場に出かけました

427 幾つかの詩句とメロディーを奏で始めました
それらは非常に甘美で自然なものでした
すぐに家々の戸口は人でいっぱいになり
人々は広場に入らなくなり、腰掛けに登りました

428 ビウエラでたっぷり楽しませ
人々の好みに従って十分に歌ったあと
彼女は韻の良く整った物語を彼らに吟じ始めました
自分が辿って来たと同じ物語を

429 王女は人々によく自分の話を理解させました
それはその日の上がりの 100 マルコより高値になりました

遊郭の主人はその仕事に満足し
大金を得ました

- 430 人々は皆王女に非常な愛情を抱き
その話がとても気に入りました
その上彼女が悪い主人を持っていることを知り
皆善意から彼女を助けようとなりました
- 431 元首アンティナゴラは彼女をとっても愛していました
自分の娘だったらこれ以上愛さないでしょう
彼女の声や歌を聞かない日は
取った食事は滋養にはなりませんでした
- 432 彼女は自分の務めを果すことを良く知っていました
主人に儲けを渡すことを
美しい眼差しで笑ったり冗談を言って
少女でありながら罪から逃れる術を知っていました
- 433 彼女はこの様な生活を長く
罪からまったく逃れて、神が望むまで送りました
しかし彼女には自分の仕事をさせておいて
難儀をしている父親の話に戻りましょう
- 434 娘を置いて立ち去って十年後
アポロニオは髭を三つ編みにして²⁶⁾戻って来ました
大きくなった娘を見つけようとしたが

その企ては再び困難に直面しました

- 435 エストランヒロは、タルソの男ですが、彼が入ってくるのを見ると

苦悩と悲しみで全身の血が失せるところでした

再び女房をその秘めた悪事のことで責めました

しかし彼女は嘘を付いて逃れようとしてしました

- 436 アポロニオ王は主人であるエストランヒロ夫婦に挨拶し、二人を抱きしめました

彼は夫婦からしかるべく迎えられました

二人に育てることを頼んだ娘を目で探しました

娘を見ずには笑うことも喜ぶこともできませんでした

- 437 《ご主人方、とアポロニオ王は言いました、これはどうしたことですか

娘が私に会いに出てこないのは悲しい

事の本当の次第を知りたい

あなた方はどうも悲しげで顔色が悪いようだが》

- 438 妻ディオニサは彼に答えました、真っ赤なウソを：

《王様、あなたの娘さんに関してはこれが本当のことです

心臓の重い病気にかかり

亡くなられました、これが本当のことです》

- 439 アポロニオはもう少しで気を失うところでした

彼らに言葉を返すのに長い時間がかかりました
こなにひどい衝撃を受けたことがなかったからです
呆然として、頭を抱えました

- 440 その後、ずっと後になって王は口を開き
ぶどう酒ではなく、水を飲みたいと要求しました
そして女主人の方を向いて、言葉をかけました
それはこの嘘つき女の心を砕くはずでした
- 441 《おかみさん、と王は言いました、私は死んだ方がましだ
私のせいで娘を亡くしたのだから
私を襲った娘の母の死の苦悩を
この娘で和らげようと思っていた
- 442 私が今や治るだろうと思っている時に
傷が治ってふさがるだろうと思っている時に
その同じ場所に別の打撃が加わって
私には治す薬がない
- 443 しかし娘の宝物や豪華な衣装は
死んでから間がないのでまだカビがはえていない
私にそれらを売ってもらえるとありがたいのだが
それで傷ついた私たちが癒されるように
- 444 それとすぐに私は彼女の墓を見に行きたい
私は墓石を冷たく硬くとも抱きしめよう

娘のタルシアナに私の苦しみを嘆こう
 ひょっとして彼女の身の定めについて何か分かるかもしれない》

- 445 ひどい話だが、町人のディオニサは、
 悪魔しもべの僕のような女で、とんでもないことをしました
 大々的に立派な碑を作ったのです
 シャツのように白い大理石のものです
- 446 石の上に次のような文字を書かせました：
 《ここにエストラヒロがタルシアナを埋葬させました
 彼女はテュロスの良き王アポのニオの娘で
 ほとんど12歳に達することができませんでした》
- 447 アポロニオは取り戻すことのできる物を受け取り
 それを男たちに船に運ぶように命じました
 彼は墓に自分の運命を嘆きに行きました
 いくつかの遺品を持ち帰るために
- 448 その良き男が墓にひざまずき
 当然のことながら悲しみに暮れようとする
 心の悲しみや苦痛が和らぎ
 どうしても泣くことができなくなりました
- 449 アポロニオは己に向き直って考え始めました
 《おお、神様、どうしてこの様なことになるのでしょうか
 もし娘のタルシアナがこの場所に眠っているのなら

私の目は涙せずにはいられないでしょう

- 450 これは皆明らかなウソだと思う
娘がここに葬られているとは思はない
娘を売ってしまったか、ひどい所に捨てたのだろう
死んでるにせよ、生きているにせよ、神に託されている》
- 451 アポロニオはこれ以上タルソに留まることを望みませんでした
そこで大きな悲しみに見舞われたからです
泣き疲れて船に戻りました
頭を覆い、誰とも話そうとしませんでした
- 452 アポロニオは準備をして出帆するように
そしてテュロスへの道をとるように命じました
自分の日々は後わずかであり、そこで死にたい
親類の間に葬られたいと思いました
- 453 すぐに錨が上げられ
櫂の準備ができ、帆が張られました
順風が吹き、波も穏やかでした
船はたちまち岸から遠ざかって行きました
- 454 すっかり道半ばあるいはもう少し来ていました
風は穏やかで、海は風いでいました
わずかの間に全てが急変しました
始めの航路から逸れてしまったのです

- 455 海はひどく逆巻き、怒り狂ったので
航行不能になりました
舵による制御を放棄せざるを得なくなり
誰も死から逃れらると思いませんでした
- 456 嵐と悪天候が彼らを捕らえ
死の風が彼らの道をそらせ
運命と神が彼らを運んで行きました
タルシアナがひどい苦しみを味わっている町へと
- 457 彼らはミタレナに着きました
ひどく苦しみ苦勞しました
風はすでに止み、彼らはすぐに言葉を取り戻して
助かったので神に感謝を捧げました
- 458 彼らは港の岸に船をつけて
消えていた火を焚き
疲れて、惨めな状態で衣服を乾かしました
アポロニオ王はこれら全てに慰めを見出しませんでした
- 459 苦勞した騎士であるアポロニオ王は
その日のような祭日に生まれたので
非常に多くの食料を買うことを命じ
祭りを盛大に、そして八日祭²⁷⁾を全部祝わせました
- 460 船の端の離れた隅で

この不幸な王は寢床に伏し
そして自分に話しかけた者は報いを受けて
足を片方切り落とされるだろうと言いました

- 461 男たちは彼の命令に背こうとしませんでした
見つけ次第たくさんの食料を買いました
昼前に食事の用意が整い
来る人は誰も拒まれませんでした
- 462 誰も王にあえて言葉をかけようとはしませんでした
厳しい掟が言い渡されていたからです
彼らは思慮深い取り巻きとして事を運んでいました
苦労した仲間が食べた始めました

- 463 こうしているうちにアンティナゴラは楽しもうと
港の方へ出かけました、気晴らしをしようとしたのです
船の中にこの人たちがいるのを見て
重要人物だと分かりました

- 464 彼らはアンティナゴラがこのように来るのを見ると
全員立ち上がり王を迎えに行きました
王は非常に喜び、彼らを見下ろすとはしませんでした
彼らをなおざりにしないように一緒に腰掛けました

- 465 食卓ではごく気軽に
ここの主人は誰かと尋ねました
《床についています、と皆が言いました、とても具合が悪いので
他でもない、もっともな喪の悲しみで衰弱しているのです
- 466 私たち彼に話しかけようとする者は
食べ物や飲み物の事を何か言おうとする者は脅されているのです
二本の足のうち片方を失うことになるのです
しつこく言うとな足とも失いかねません》
- 467 アンティナゴラはどんな場合に
そのような悲しみ、そのような出来事に遭遇したのか自分に話す
ように求めました
彼らは事の顛末とその説明を全て話しました
アポロニオのことを始めから
- 468 アンティナゴラは彼らに言いました：《もし私が混乱していなければ、思うに
その名はタルシアナがよく口にしていた
危険を冒して、私は大胆になりたい
そいつは血も涙も無い悪党のようだと私は言おう》
- 469 男たちは彼にアポロニオが臥せっている所をみせました
というのはこの良き男は皆んなにとっても気に入られていたのです
から
彼はアポロニオが胸まで覆う長いひげをはやしているのを見て

そこまでするのはすごい事だと思いました

- 470 アンティナゴラは彼に言いました：《神があなたを救ってください
るように、友アポロニオよ
あなたの冒険のことは聞きました、私はあなたと話をしに来たの
です
もしあなたが私のことを知ったら、嬉しく思うでしょう
というのは私は物乞いをしているのでも、乞食でもないからで
す》

- 471 アポロニオは寝台から少し振り向きました
もし身内の者だったらひどい被害を受けたでしょう
しかしその様にして知らない男を見ると
何も答えず、怒りを抑えました

- 472 アンティナゴラは引き下がりませんでした、彼を放っておこうと
はしなかったのです
気高い男だったので、彼を元気づけようとしたのです
アンティナゴラは言いました：《アポロニオ、あなたは用心のし
かたを知りませんね
私にはもっと他の方法で振る舞うべきでした

- 473 私はこの町の主^{ぬし}で、命令する事が私の任務です
もし聞いたことがあるなら、アンティナゴラという名前です
町から馬に乗って、気晴らしにきました
港に泊まっている船を見に

- 474 私が岸辺をずっと歩いて行くと
このあなたの船が気に入りました、よく装飾が施されていると思
いました
あなたの男たちが全員私を迎えに出てくれました
彼らの招待を受け、彼らの所で食事をしました
- 475 私は簾の行き届いた男たちを見ました、よくできた人たちです
とても美味しい食事と、非常に豊かな食卓
私は宿主は誰かと尋ねました
彼らはあなたの名とあなたの辛い生涯を私に語りました
- 476 しかしもしあなたが私の言う事を聞いて信じるつもりなら
この暗闇から私の町を見るために出て、
あなたはそこで大きな喜びとなるものを見るでしょう
なぜならあなたは悲しみの大部分を取り去る事ができるでしょう
から
- 477 あなたは他の事に気を向けるべきです
神がまだあなたに大きな哀れみを示してくれるかもしれないので
すから
あなたは失ったものを取り戻せるでしょう、これは本当だと思い
ますよ
あなたはこの悲しみと辛さを取り去ることができるでしょう》
- 478 アポロニオは答えて、顔を彼の方に向け
言いました：《友よ、あなたが誰であろうと、お引き取り願おう

私はあなたにとっても感謝します、十分に慰めてくれました
私に良い助言をちゃんとしてくれているのは分かります

479 しかし私は私の罪によってこのようになったので
心臓が貫かれる思いです
私は生きていくことができず、すべてに無関心になっているので
天のものにも地のものにも興味がありません》

480 アンティナゴラは彼のところから途方に暮れて出て来ました
善人がひどい病いに苦しめられているのを見ました
まったく混乱して男たちにところに戻って来て
彼らにあの非常な善人は見放されていると言いました

481 彼は思いつくことも考えることもできませんでした
アポロニオをちゃんとさせる方法を：
《私は昨日よりもずっともっと心配している
私は真の信仰のお陰でこのようになったことはない

482 しかしちょっとした取っ掛かりを考えて見ます
それを試してみましよう、何も失うものはないのだから
神が私たちに聖なる力を貸してくださいますように
私たちがエリコ²⁸⁾を手に入れることができるようなものだと思
いますよ

483 町にある女芸人がいます
—彼女はかどわかされて来たのですが—、彼女を探しにやりま

しょう

もし彼女が彼の心から苦悩を取り去ることができなければ
世界中のどんな人にもできると約束できませんね》

484 彼は悪人（遊郭の主人）のところへ召使いを送り言わせました
アポロニオに仕えるようにタルシアナが欲しいと
そしてもしアポロニオを治したら、料金は自分が払うと
彼女が自ら要求するだけを

485 彼女は正装で着飾ってやって来て
アンティナゴラと一向に挨拶しました
入って来るや、一言聞いただけで
旅人たちにとても気に入られました

486 アンティナゴラは彼女に言いました：《愛するタルシアナよ
あなたが良い時に来たのは神のお思し召しです
あなたの偉大で完成された技が
今明かされる時です

487 この仲間の長で善良なお方がいます
大金持ちで、高貴の出で、能力のある人です
常ならぬ被害に会い悲しみに沈んでいます
どうかあなたの力で彼を助けてください》

488 彼女は言いました：《私に彼を見せてください、私の望み通りに
私は舐め薬と非常においしいスパイスを持っているので

その人が死んでいなくて生きているなら
その人が欲しいといえはすぐに元気にしてあげられます》

489 人々はタルシアナ王女を彼の寢床へ連れて行きました
彼女は言いました：《神があなたを救ってくださいますように、
巡礼か商人か知りませんが
私があなたの苦悩をととても悲しんでいることは神も知っています》
彼女は楽器を手に持ってアポロニオの前に立ちました

490 《私の慰めを受けたからといって恥だと思わないでください
私のことをよく知れば満足するはずです
私は安っぽい女芸人じゃないんですから
私は好きでやっているわけじゃなく、いやいややっているんです

491 私は良家の出の、高潔な両親を持つ夫人です
しかし私の重い罪のため敢えてそれを言いません
私は魚の生まれる波間で生まれました
私には全くの嘘つきで裏切り者の養育係りがいました

492 海上をやって来たガレー船に乗った盗賊たちが
私から利益を奪い取るために、死から私を解放しました
不幸なことに彼らは私をある男に売りました

その男によって多くの乙女たちが不幸に突き落とされました

- 493 しかし現在まで神が私を守ってくれました
 悪魔は私から何も奪い去ることはできませんでした
 悲しみのうちに生きていますが、うまく逃げ出すために
 世を騙すことができる方策を探しています
- 494 そしてあなたはこのままだと死んでしまいますよ
 あなたの邪念については私たちは言うところがあります
 もし生きたければこの住処を変えなさい
 あなたがここを出たければ、私が治してあげましょう》
- 495 このことそして他の多くのことを言うと
 彼女はピアノで自然に湧き出た曲と
 良くできた、きれいに韻を踏んだ詩歌を奏でました
 アポロニオ王は悪くはないと思いました
- 496 王は褒めて、十分に楽しむと
 言いました：《友よ、あなたにとっても満足しました
 あなたが良家の出であることは良くわかります
 あなたの教育には非常に博識な先生が当たったのでしょう
- 497 しかし私を治して創造主のお気にめすなら
 喜んであなたを慈しむつもりだと分かってもらえるでしょう
 あの主人があなたを売ろうとするなら
 あなたを喜んで自由にしてあげましょう

- 498 しかしここで私に仕えてくれたこの素晴らしいことに対して
選りすぐられた金 10 ポンドをあなたにあげよう
幸運をつかみなさい、私はひどく傷ついていて
いくら生きても治らないだろうから》
- 499 タルシアナはとてもがっかりしてアンティナゴラのところへ帰っ
て
彼に言いました：《私たちはここで何も改善できません
アポロニオは私にお礼に金 10 ポンドをくれるように命じました
しかし私はまだそれを受け取るのを承諾していません》
- 500 《あなたは、とアンティナゴラは言いました、正当なことをしま
した
彼の金を受け取ってはいけません、それは大きな罪です
あなたにあげるように彼が命じた二倍の金を私があげよう
私はあなたの骨折りが報われないのは望まない
- 501 それでも私はあなたにお願いがあります、どうかお願いします
彼のところに^ね戻って、そこであなたのすばらしい音を奏でてく
ださい
もしあなたがうまくやって、私が正しければ
神はあなたの^ね音で彼が癒されることを望むでしょう》
- 502 タルシアナはアポロニオ王のところへ戻り、詩を作り
ビオラを奏でながらそれを歌いました
《良きお方よ、と彼女は言いました、これがあなたが私に約束し

たものです²⁹⁾

納得できないとしても、取っておいてください

- 503 あなたに二三尋ねたいことがあります
ちゃんと答えることができたなら
私にくれると命じたお金はもらっていきます
もし答えられないならそれは置いていきたいと思います》
- 504 アポロニオ王は恐れました、もし彼女を無視すれば
ことが知れた時、人はどう思うだろうと
そのようにしたら、お金を受け取るという条件で
王は彼女の方を向いて、質問するように命じました
- 505 タルシアナが質問しました：《どんな家だか言ってください
決して静かでなく、いつも困っているのは
客はだまっていて、宿が大声を出すのは
もしこれを当てれば、私はあなたに満足しましょう》
- 506 《これは、とアポロニオは言いました、考えてみよう
川はぶつぶつ言いながら流れる家です
魚はいつも黙っている客です》
《それが答えです、他のを出します》
- 507 《私は水の親戚、川の友です
私は美しいタテガミを作り、それをとても高く投げます
私は白から黒を作ります、それが私の仕事ですから》

《これは、私の考えでは、もっと難しい》

508 《葦は水の親戚です

水辺で育つのですから、これは本当のことです
とても美しく非常に背丈の高いタテガミをもっています
それで本を作ります。三つ目の質問は何ですか》

509 《私は山の娘で、もともと軽くできています

切り裂いても決して跡は残しません
風と戦い、決して安全ではありません》
《船が、とアポロニオ王は言いました、そのような様子をしてい
ます》

510 《結構です、とタルシアナは言いました、あなたはこれに答えま
した

あなたは知識のある司祭のようです
でもお願いです、十分答えたのですから
飽きないように願います、そして治ったと思ってください

511 とても熱い大きな焚き火の間に

裸のものが、衣服をつけていない客が横たわっています
熱も彼を害しないし、寒さも彼を悩ませません
この謎は難しいと認めるでしょう》

512 するとアポロニオ王は言いました：《私もそうするでしょう
以前のように陽気であったならですが

風呂に入るためには服を脱ぐでしょう
このようなくだらないことを話すのは馬鹿げていると思います》

- 513 《私は足も、手も、腸も持っていません
鎌のように曲がった二本の歯しかありません
私を連れてきた者を私は途中で止め置きます》
《あなたは錨のことを言っている》、と旅の王は言いました
- 514 《私は硬い母から生まれて、羊毛のように柔らかい
私は自身は軽いので、川は私を重くします
私が妊娠すると、ほとんど蛙のようです》
《夫人よ、あなたは海綿のことを言っている》、と王は言いました
- 515 《あなたに言っておきましょう、とタルシアナは言いました、も
う私はより陽気になりました
ことは良い方に向かうと私は思います
神は私に助言をくれるでしょう、それは良い印と私は見ます
まだひょっとして私は望むものを見るかもしれません
- 516 私はとてもやさしい三つの質問があります
お願いですからこんなわずかなことで面倒がらないでください
お望みなら時間をあげましょう》
- 517 《私は今まで、とアポロニオ王は言いました、こんなしつこい人
は見たことがない

あなたにはまったくイライラします
三つ以上聞いたら、あなたを嘘つきだと思いますよ
それ以上は絶対にいやです》

- 518 《私は内側には毛が生えていて、外側には毛がありません
いつもタテガミを胸の中にしっかり隠しています
手で伝い歩きをし、人々は私を嘲笑します
食事の時、誰も私を呼びません》
- 519 《私が全てを失ってペンタポリンに着いた時
あの競技がなければ、私は苦悩したでしょう
その競技のおかげで私はアルチトラストレス王に名誉を与えられ
ました
もしそうでなければ、王は私を食事に招待しなかったでしょう》
- 520 《私は黒くも白くもなく、はっきりした色がありません
諺一つ言う舌也没有
でも私は皆んなを負かすことができます、いつもケンカしています
私は市場ではほとんど1のデナリオの価値也没有》
- 521 《行商人は鏡に安い値をつけます
それは金色でも、黒でも、白でも、深紅でもありません
それを覗く人が自分と同じ顔色を見るのです
背の高い人も低い人も同じになります》

- 522 《私たちは四人姉妹で、一つ屋根の下に住んでいます
私たちはペアで走り、いつも互いに追いかっこします
私たちは毎日歩きますが、決して互いに追いつくことはありません
私たちは抱き合って寝ますが、決して交わりません》
- 523 《この問いに答えるのはやさしい
四人姉妹というのは四つの車輪です
二つずつ組み合わさって、梶棒がそれらを引っ張ります
それらは歩きますが、決して一緒になりません》
- 524 タルシアナまだ彼に他の質問をしようとした
彼をお話で欺こうとしていたのです
しかしアポロニオ王はお話がどのくらいあったのかを数え
やめて放っておいてくれと彼女に言いました
- 525 《友よ、と王は言いました、あなたは私に満足すべきです
あなたが求めたものは、きっちり満たしてあげました
さらにあなたにお金を払いたい
すぐに退散してこれ以上私になにも言わないでください
- 526 もうこれ以上決してあなたのやり方には耐えられません
私を喜ばしたいのはよく解りますが
私の仲間は皆それをバカにするでしょう
その上私は決して私の言葉を変えることはないでしょう》

- 527 彼女はこれまでこんなに多くを語り話したことはありませんでした
彼を元の明るさにもどすために
彼の大きな苦悩に対して何を考えたら良いのか分からず
両腕を王の首に巻きつけました
- 528 王はこれに怒り
激しく腕を振ると
タルシアナの顔に傷を負わせしまいました
それはひどい打撃で彼女に鼻血を出させました
- 529 彼女は怒り、泣き始め
すべての苦しみを語り始めました
アンティナゴラは莫大な財産を差し出したことでしょう
このような厄介ごとに巻き込まれないためならば
- 530 彼女は言いました：《ああ、不幸な私よ、私は悪い時に生まれま
した
恥をかくのが私のいつもの宿命でした
私は知らない土地を苦勞してまわっています
利益を得るため仕えて悪いお金をもらっています
- 531 ああ、母ルシアナよ、あなたは悪運に苦しめられたにしても
娘タルシアナにより良い運を与えることができませんでした
海で危険な目に遭い、お産で死にました
あなたは私を産むより絞め殺すべきだったのです

- 532 我が父アポロニオはあなたを助けることができませんでした
聖なる墓にあなたを埋葬できないで
非常に立派な棺に入れてあなたを海に流しました
私たちは遺体がどこたどり着いたのか知りません
- 533 父は私の命を救い、そのために私は苦しむことになったのです
父はタルソのディオニサに私を育てるよう引き渡しました
当然の嫉妬から彼女は私を殺させようと思いました
もしあの時殺されていれば、わたしは苦しんでいないに違いありません
- 534 私は自分の罪のために死を逃れることになったのです
私を救ってくれた人たちは私を放っておいてくれませんでした
私を相応しくない男に売ったのです
その男は私の心も体も傷つけようと思いました
- 535 私を助けようとする天のお恵みで
今まで誰も私を打ち負かすことはできませんでした
善人たちが私にたくさんお金をくれました
雇い主に上りを全部払うために
- 536 苦悩の中でこれが私にとって最悪です
私が仕え愛そうと男が
私をひどく侮辱したのです
このようなひどい尊大さは造物主を悲しませるに違いありません

- 537 ああ、悲運のアポロニオ王よ
もしあなたの娘がこんなにひどく侮辱されているのを知ったなら
苦しみ、悲しむでしょう、そしてちゃんと復讐するでしょう
しかし私はあなたは生きていないのではないかと思います、だから私を捜してくれないのです
- 538 父に関しても、母に関しても、私の重い罪のため
埋葬された墓地を私は知ることはないでしょう
私は獣のようにいつも市場に連れて来られ
私より劣る者たちの指図に従っています》
- 539 アポロニオは元気を取り戻し心から喜び
彼女の言うことが本当だと分かりました
アポロニオは喜んで彼女の方を向いて
嘘をついていないかどうか尋ねました
- 540 《ご婦人、どうか神があなたを父親に会わせてくださいますように
に
私のしたことを許してください、あなたにお金をあげましょう
私は怒りから過ちを犯しました、信じてもらえだと思います
というのも私はこのような過ちをしたこともなかったし、しょう
とも思いませんでした
- 541 それに、あなたが思い出せて、もし私に言うことができたなら
あなたを育てた乳母の名を言うことができたら
ひょっとして二人とも喜ぶことができるかもしれません

私は娘を、あなたは父親を取り戻すことができるかもしれないのです》

542 夫人は彼を許し、怒りを収め
質問に忠実に答えました
《乳母は、と彼女は言いました、いつも懐かしく思うのですが
リコリデスと呼ばれていました、嘘ではないとお知りおきください》

543 アポロニオは間違いではないとはっきり分かり
確かにこれは自分の娘だと理解しました
すぐに床から飛び起き
言いました：《これは驚いた、お前は本物だ》

544 大喜びで彼女を腕に抱きしめ
言いました：《ああ、我が娘よ、私はお前のために死ぬところ
だった
もう苦しみはなくなった
娘よ、私にとってこんな素晴らしい日はなかった

545 こんな日が来るとは思っていなかった
あなたをこの腕に抱けるとは思っていなかった
あなたのために悲しんだが、今は喜んでいる
いつまでもこのことを神に感謝しなければならないだろう》

546 王は叫び始めました：《家来たちは来なさい

アポロニオは回復した、手を叩いて歌いなさい
飾り馬具を馬につけ、馬を走らせなさい
高槽³⁰⁾をたくさん立てて、それらを碎きなさい

- 547 大きな素晴らしい祝い事をどう祝うのか考えなさい
私は失った娘を取り戻した
嵐は幸いだった、神によって引き起こされたのだ
それによって私たちがこの地に来ることになったのだ》

- 548 アンティナゴラ王はどんなに利益があっても
たとえフランスの領地を得たとしても
お世辞じゃなく、これ以上嬉しくはないでしょう、
というのは彼はこの事に大いに気前の良さを示したのですから

- 549 彼は家来衆が言っているのを聞いたのです
アポロニオがはっきり言うのを
髭だろうと髪の毛だろうと私は全然短くしない
娘をちゃんと結婚させるまではと

- 550 事を収め世話を果たすために
アンティナゴラ王はアポロニオに娘との結婚を申し出ようとした
娘が結婚したら毛を刈らせることができるだろう

誓いが守られどうこう言わずに

- 551 アンティナゴラ王の名は書に刻まれるにちがいありません
人を救うためにこれだけの事をし得たと
もし彼がキリスト教徒であり、信じることを知っているなら
私たちは皆彼の魂のために祈るべきでしょう
- 552 《王様、とアンティナゴラは言いました、あなたにお願いがあります
あなたのお嬢さんを私にください、私を彼女の夫にしてください
私は彼女のお世話をしました、その事で後悔はしていません
それはお願いを聞いてもらうのに役立つに違いありません
- 553 あなたは私を娘婿として受け入れ愛するちゃんとした義務があります
というのも私は正当な王であり、治める王国があります
王様、あなたはきっとさらに驚かれることでしょう
もし彼女をより良い相手と今年結婚させることがおできになれば》
- 554 アポロニオは彼に言いました、《あなたの申し出は承知しました
あなたの善行が忘れられることがあってはなりません
あなたは二人にとってとても忠実な友でした
彼女の師であり、私のことは治してくれました
- 555 その上私は毛を刈らないと誓いました

髭も剃らず、爪も切らず
タルシアナを結婚させるまではと
彼女を結婚させてことになったので髭を剃りたいのです》

556 すぐにこの噂は町に広がりました
この結婚は皆を喜ばせました
子供も大人も心から喜びました
本当の事が分かって苦痛を味わった嘘つきの裏切り者を除いては

557 こういった噂にタルシアナは黙っていましたが
この結婚は彼女にとって苦痛ではありませんでした
彼女が苦悩していた時に彼がかけてくれた愛情を
そこから抜け出ても、彼女は忘れませんでした

558 二人は結婚の準備をし、祝福を受けました
人々は皆彼らのために祈りました
人々の喜びやそれに伴う出費が非常に大きかったので
言葉で言い表せないほどでした

559 この事でタルシアナは安心はしていませんでした
自分が苦悩から解放されたとは思っていませんでした
もし自分を買った嘘つきの裏切り者が
石打ちにされるか、剣で殺されていなかったら

560 この事に関してアンティナゴラは会議を招集しました
すぐに彼らはふさわしい場所に集まりました

王は言いました：《皆の者、ちょっと聞いてくれ
皆で相談する必要がある

- 561 大きな力をもったお方、アポロニオ王が
ここにおられる、君たちと知り合いになることを望んでおいでだ
決して会えると思っていたいなかった娘御を
ここで見つけられた、君たちも嬉しいに違いない
- 562 私は彼女に妻になってくれと頼み、彼女と結婚した
素晴らしい結婚んで、私は彼女に満足している
彼女はここに住んでいたのだから、どんな人物か君たちは知っている
彼女が示したようにそのことを君たちは皆分かっている
- 563 アポロニオ王は君たちにとっても感謝し、大事に思っている
彼女が過ちに陥らないように守ってくれたのだから
ことでは創造主のおかげで私たちはとても幸せだった
もしそうでなければ、大きな悲しみと苦痛を味わっているだろう
- 564 アポロニオ王は君たちに少しばかり贈り物をしたいとのこと
50 万マルクの金で、受け取ってほしい
君たちが使いたいことに使うように
このことで彼がどんな人物か君たちは分かるだろう
- 565 しかし彼は特にこのことを君たちに頼んでいる
娘御を侮辱しよとした悪い裏切り者に

君たちが与えるべき裁きを与えるように
その悪人がこのことを自慢できないように》

- 566 皆の者が口をそろえてこう答えました
《神がこの良き王に長く幸福な生涯を与えてくださるように
彼がこの復讐を私たちに託すのだから
私たちが彼の願いを叶え、拒むことのないようにしましょう》
- 567 彼らはこの頼みをまたの時に実行しようとは思いませんでした
会議はとても憤慨していたので行動を起しました
彼らは裏切り者のところへ行き縄をかけ
悪い泥棒のように石を投げつけ殺しました
- 568 このようにして人々がアポロニオ王の復讐を果たすと
この不幸な男はすっかり切り刻まれ
破門された者するように犬に投げ与えられました
テュロスの王は会議に満足しました
- 569 タルシアナはこの男が買った婦人たちに
たっぷり持参金をつけて良き夫たちを与えました
彼女たちは罪から抜け出し、とても貞淑に生きました
というのは虜にされていた彼女たちはそのような準備がちゃんと
できていましたから

注

- 23) レスボス島の港

- 24) 後世のスペインで元々は「分銅」を意味する pesa
- 25) 注 10 参照
- 26) 哀悼の印であった
- 27) 大祝日の後の八日間の祝祭
- 28) 聖書に出てくるイスラエルの町の名
- 29) 金 10 ポンドのことであろう
- 30) 騎士が投げ槍の練習で標的にする板

参考図書・辞書

- Libro de Apolonio Edición de Manuel Alvar Editorial Castalia 1976
- Libro de Apolonio Odres Nuevos Editorial Castalia 1969
- Libro de Apolonio Edición de Dolores Corbella Cátedra Letras Hispánicas 2011
- アレクサンドロスの書・アポロニオの書 橋本一郎 大学書林 1991
- Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986
- Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Alfópolis 2002
- Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A. Kasten and Florian J. Cody The Hispanic Seminary of Medieval Studies New York 2001
- Diccionario de la Lengua Española Real Academia Española Espasa 2001
- スペイン語大辞典 白水社 2015